慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	2004
Jtitle	哲學 No.112 (2004. 3) ,p.271- 271
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000112-0273

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

哲 学 第112集 ——編 集 後 記——

本特集は，慶應義塾大学文学部での講義において，家族・親族論，日本社会論という私の講義に，非常勤講師として講義をお願いしている田澤あけみ先生，重岡徹先生，岡田あおい先生の講義を組み合わせて，日本の家族をめぐる問題を考える一纏まりの講義群を学生に提供しようと考えたことがその契機となっている．

こうした試みは，塾内スタッフの執筆を前提にしている「哲学」においてはいささか異例のことではないかと思う．そのため，田澤，重岡，岡田の三先生には，突然の依頼でいろいろな面で御負担をおかけしたのではないかと思う．しかしながら，三先生に快く原稿執筆をお引き受けいただけた事に編集担当として深く感謝申し上げたい．

三先生の原稿に加えて，私のゼミを卒業後，御茶の水女子大学で学位を取得し，フランス社会学および職業と女性の社会学的研究を進めている若手の研究者，佐藤典子君，現在社会学研究科の博士課程に在籍し，日本の上層階級の再生産と教育の関係を研究している小山彰子君及び椋尾麻子君の寄稿にも感謝したい．最後に収録した「近現代女性史年表」は社会学専攻に学士入学した社会人学生平井一麥君の業績ではあるが，近現代の女性史関連項目が整理されて抽出されており利用価値の高いものと考え収録させてもらった．

すでに「哲学」には，渡辺秀樹先生が監修された「変容する社会と家族」という特集がある．数年をおかずしてまた再び家族に関連する特集を組まなければならなくなり，編集担当としては特集のテーマ設定に大いに苦労することとなった．原稿の執筆を依頼した方々の研究を全体的に包括するようなテーマを設定することはほとんど不可能であった．そのために，「家族とその社会的生活世界の探求」などというまったく漠然としたテーマとなってしまった．この責任は執筆者各位にあるのではなく，ひとえに編集担当個人に帰すものであることをお断りしておきたい．

また，一部に注記の不統一なところがあるが，これもまた編集担当の責に帰するものである．御了承をいただきたい．